

G1皐月賞

<最終見解>

今年の皐月賞は久しぶりに1分 58 秒台の決着になることを想定。

近年の中山芝 2000m の上級条件は時計の出る決着の際には、日本の主流血統に欧州の加速力を強化された馬が好走。2015 年以降に速い時計になった皐月賞も同様の傾向になっています。

本命はビザンチンドリーム。

父のエピファネイアは 1 分 58 秒 1 で皐月賞 2 着。
弟のサートウルナーリアも時計の出る皐月賞を優勝。
近親にフサイチリシャール。中山開催だった当時の朝日杯 FS 勝ち馬で、東スポ杯もレコード勝ち。体力の完成の早さ、高速決着に強い一族。

対抗ミスタージーティー。

父ドゥラメンテも皐月賞を1分 58 秒 2 で優勝。

母父は欧州のスーパーサイヤーサドラーズウェルズ。
ドゥラメンテにサドラーズウェルズはタイトルホルダーと同じ。
同馬も内回りの時計勝負は強い馬でした。

2 走前まで鞍上だった坂井騎手は昨年以降、
芝 1600m 以上の特別戦を 3 コーナー6 番手以下から勝利したことはありません。

藤岡騎手に替わることで、前哨戦を叩いてきた強みで
ホープフル S 組をまとめて逆転する可能性は十分にあると判断します。

ジャンタルマンタルはスマートストライクの系統で時計の出る中距離戦が得意。
前走は極端なスローペースになったのが向きませんでした。

レガレイラは 4 番手。
前走より追走ペースが速くなることと、年末からぶっつけのローテは不利、

ジャスティンミラノはハイペース経験が足りないのは不利。

シンエンペラーはハイペースを先行する競馬は合わないですし、
かといって差す競馬を鞍上が上手にできるか？は未知数。

G3アンタレスS

<最終見解>

米国血統が走りやすいコース。
特にエーピーインディ、ストームキャット持ちの種牡馬に好相性。

本命はミッキーヌチバナ。

父は米国型でダートの良血ダノンレジェンド。
近親は砂中距離の名種牡馬ゴールドアリュール。

3走前本命にした際にも解説しましたが、
消耗戦で上がりがかかるレースが得意な馬。

前走は上がりが速過ぎましたが、
今回は上がりがかかるレースになる可能性が高いので前進するでしょう。